東蝦夷日誌弐編

全

特1
843

国立国会図書館　タイトル『東蝦夷日誌』　請求記号 特1-843

ガラス使用

東西蝦夷山川
地理取調紀行

東蝦夷日誌二編

多氣志樓藏板

特1
843

首言

一此編東部ウスよりモロラン ホロヘツ シラライ四場所を誌す海岸を初集の如く数度の日誌より摘抄して大意を記し臼のヲサルヘツの事は於沙流邊津志より摘抄するべし

一編中大臼山二世雲洲上人垂誡三世辨瑞上人子引歌等を入る上人の立人を教授し玉ひしは人の及ぶさる処にして弘法の好法をあらはす上人行状実に不礼なる故に是を誌し無り嗚呼ことなの御不幸の時に当り貧窮浮木の民を教育するの有司ニハ是を汲めかんことを

一海岸を上より誌るし文化度切算陸続を一字下ゆ○摽左右へ入る処まさ川筋等△を以て摽とす

国立国会図書館　タイトル『東蝦夷日誌』　請求記号 特1-843
ガラス使用

一川崩桃茶魚鯇等誌るを如必す雑喉（ホンチユツウ サツコ）も有之一ニ是を志るされ
編言ニ明て如名の譯を省略せ是前ニ出せ有之余圖鳩（カツトウ）の地名
ヤとして不審その要れを答ニ審さんと欲ニ人を余ハ門扉（モンヒ）を叩ふ也
一此地のことを称常しかりんその人せんせ事を讀ニ余ハ日誌のかきハ餘り
繁く讀惑れ頗雑（ワツラワ）して文近世拝行さる事ハ毎藝（ブケイ）の譚多く猿（モノカタリ サル）
蟹（カニ）宮戦（カツセン）の物語（トキハナシ）のかき事ハ有り却て寄を説んと志てこの地を
宮邦の報ニ出ありしたるもの多れハ是害ありしに依て余ハ有の經
吟のまゝ文を飾ニ是等と笑をまとし誌るし事をのなるべし
文久三癸亥の霜月中浣にし唯ニ鼓豆（イリマメ）ヲて志るし事

東蝦夷日誌 貳編

宇須（ウス）

伊勢 松浦竹四郎 著

海畔岩山似剣鋩（ニ）秋来雲ニ剣（ニ）無物（柳子原）吟来予山名の癖ハ有ハ何時も
此処ニ来て撫摩を歴さるもの有し寄岩怪石宮ハ神工鬼斧而成之
峯巒弱兵隔海軍を浸し恰も蓋（ヒシ）の如し窓（セマミチ）通ニ五丁六寸キラフヌト岩岬
角（キシ）のかき岬の美也此岬尖て出て出て有号く并て夕ニ子シリ長岩カシウ
シユマ岩（シユマ）抄子岩（カシウ）の美也是りて濤ニ入る濤口ハ余ハ用二十余丁浮フレ濤口
ナイ会ニ一リ七丁五十寸
恰も囊の括乃如く嚢（ヒヨウ）の如く志て船をり宜し本名ウシヨロと云ナ也
結て今ハ松前ハ紀ニ也録二日卯宮須の御蔵ヲ也松前ハ本ニ永正八年未四月シノリ宮須
ニ会おの其也為ニ見級等也六年丑四月宮須岳蔵堪号也是皆宮鈸の事也

白井氏藏書

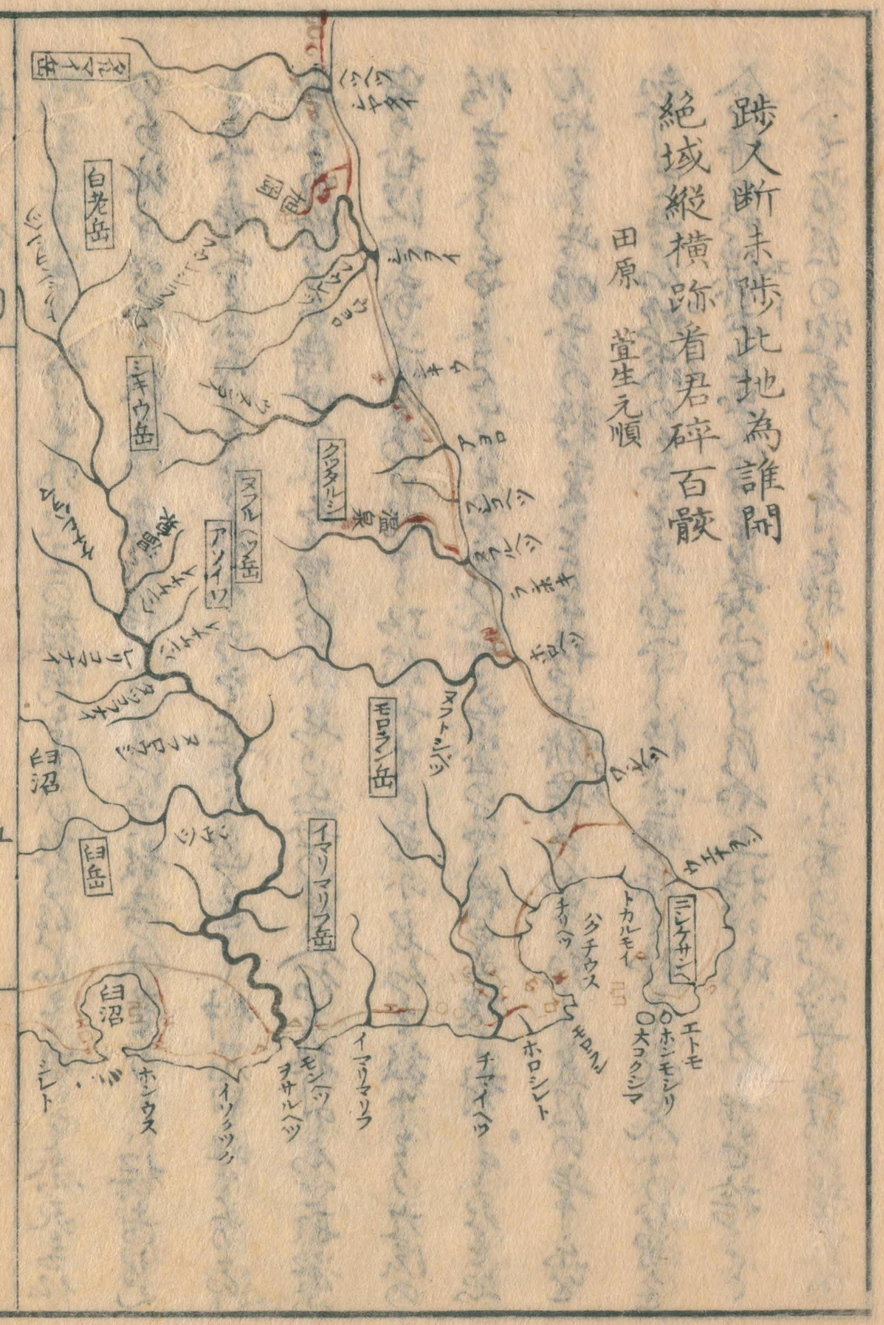
国立国会図書館　タイトル『東蝦夷日誌』　請求記号 特1-843
ガラス使用

ウス 会所一棟 制札 雑蔵 一ツや 旅宿 板倉五 といへる場所の内なるに東西小地ともに此よき湾
を崎ウシヨロと称る如くし 其鉢をウシヨロケと云しも 臓の場之西北のヲヨロ
よりウシヨロの称し ウシヨロコツと号る地は乃ち丈小地のウシヨロも此湾より来て
号しと此地は名ハメ分え 会所 と云るは古の浦 ウナミ より[illegible]此所
斗当しる如く号る 其の井を社 稲荷 弁天 大黒天 の地の土人多し 文政改 三三 新四百十七人
安政改九十三新 四百六十人
産物 鮭 鰯 鱒 挑 海鼠 鰈 鱈 昆布 庸皮 海扇 布 海苔 多し
土地西南等所と寛ち 东は山岳常に煙出し云和ハ湾の小岸まで諸品の
船舶とおふ小舶も出し モヤイ 乗りて菜蔬 出来 阜 上り 海面を纏めは
△蘇湊浩渺として 飛鳥鴎 鰈 候 猿 戯 [illegible] 蹴 [illegible] 北の方イエ
子ソウ 岩 ヲチカフウシユマ 小 [illegible] エコンケシラル 小岩 レシラン子コツ 三岩 レス

三ツの岩之ホロシラル 大岩 トシラ子コツ 二岩 トは二つの岩にカバフケシラル 岩 フプシラ
ル 岩 [illegible] ヨヤコツ 岩 レフンシラリ 立岩 レフニモシリ 岩 沖 島 の
岩之湾 [illegible] ホロモシリ 鉄 ヒタモシリ 岩 [illegible] 二 [illegible] 飛越別
[illegible] 海 [illegible] ウニ [illegible] セカチカナチ 常 [illegible]
[illegible] 岸の岩 [illegible] 根 [illegible] 浪の [illegible]
[illegible] 秋の [illegible] 浪の [illegible] 拾遺 紀正敦
[illegible] 湾の小岩より イタヨノト 岬 大岩 [illegible] ニテ 千万
大臼山道場 [illegible] 浄土宗本 [illegible] 三 [illegible] 弥陀如来 全佛 律 [illegible] 別本 [illegible]
[illegible] 十三世 [illegible] 上人 [illegible] 文章 保十一 午 [illegible] 正月 [illegible]
[illegible] 場 大 [illegible] 上 [illegible] 村 [illegible] 八世 天 [illegible] 社 [illegible]
和 [illegible] ウス [illegible] 山の [illegible]

なるに依る因ても苛ことに拵此地にその穴なると云ふ慈覺大師の應緣とて古より
地蔵堂行く（法中出現のよし云）傍に石の弥陀の像なるあり一ヶ菱長十八年（癸丑）銘を菱廣云
玉宮須賀堂善光寺（松本志同明寺紀）のひとつ後覺文六（丙子）年江州伊吹山に等覺の僧
圓空再興後ゆゑ享保十一（丙午）年上總国古殿名所行和尚再建せしに菱長
十八年拵札并に享保十一年の拵札あり然れ形斗の小堂なるに享和二（戌）年
九月廿一日ち社本行人を会ひて小野ち僕の子孫止ちと稱も堀夷地は別
の境にて追ひ此世孫もなるゆゑ此は苦しうゝ此紀と稱ふ事ふ正の所も生ゆへき
や難斗に依て新ち何ヶ寺と定めて餘は庵室の類も未難事に極て然る
為しと同年十月十一日ち社方（松平周防守孫）より挨拶為文十一月廿五日使おき忠藤野五
ゝ里達し為（中略）追て五ヶ寺も建立の積りを以此蓋時三ヶ寺も造ち就し安尤

彼地ち僕は擅家にも無るより追る擅城に出来るとは善情并扶持にも當に用金
ゝ内より稱ひ中とて（中略）住職は寺社本行の方にて拵ひの上理場上ち金地院の
会下より望て下付支より望て文化元子年浄土宗大山山居場院善光寺莊
（浄翌丑）三月出立（休明光紀）し建立半りして壬化ゆゑ二世寧洲上人は筑前の産にして
法徳四方に隠遁ありし法本行者と同に紀州須加（スカヤ）に山居ありしなひ故に行者を
江戸に誘引し自分此地に後り此一ヶ寺を建立し文化四丁卯年五月俄羅（ヲロシ）
新船の時には処之佛幟を立て土人に地を守らしめ身は彼等ち煙丸に死
せしも外夷の恥を受るのあるんと教授し一銭の垂誡を作り是を一枚起
候に我言を附持（ハツカヨ）のせ又後世の枝折とし人ち書を著して施し又或時は
大なる数珠にて夷民に百萬返をくらしめし等も生活遠に生ける者



跡人断未踏此地為誰開
絶域縦横跡看君砕百骸

田原　萱生元順

国立国会図書館　タイトル『東蝦夷日誌』　請求記号 特1-843

ガラス使用

絨等之四山来通して外死生の殺免きをひ起る候ハ心を改して念死を伝
のお他の有へ候ハ支治発抜ハ古今社宅数侍使当るきハ様士の為也
今更に尊へきにあらず生死ハ分る事業を逃るべし仲尼曰死生有命
孟子曰修身而待世事を聖賢既に然り出世の望人何を執して心を形骸に
留めむ況や家ぞ浪漫の如なり孫清利生の為に身心を放ち出り九流の
俗古良の家をこんて人生を軽んず三宝の聖権宣境に対して死を忍
んやまた此眼前の轉変をこんて増上獣苦の心を起し身後の常示を
観して当心欲求の意をさしむべし徒に病床に卧て死せんよりハ勇を
念佛の時様士を出んの勇なにあらずや上達ハ能く身命を捨ると
人にて皆後の炮烙に命を捨んのことにあらず嗚呼世の窮の生死を

今ゆゑ強まり高遠の浮士ハ所見に満れり豈思ふや宇宙を除経の
是場として未達を待べしとは彼をも計さや夷絨を逆知識とし
往生の先達をとらへしとハ大宗を出ん心に念佛して怨親平等一伝浮士の
回向をへし伝の加祐なりしかハ天下和順兵戈無用の巨量有へし自
行を全して常民を慕せ怨歎の行願も此ふるを志て免す
事もあらず深い画屋に拠身して余生を送るべし私を愛洞庭事を
飢寒の事に弄せられし比人服を思ひ心し海寄せる浮業の勇を
せざるを憂ひて絨徒の不治せざる事を患とせて為体分有飛
おなじかに彼ハ防戦の儲を役人家ハ五穀を全すを同じからざと
いへども生事を一を望

大臼山二世風呂寄物誌也

国立国会図書館　タイトル『東蝦夷日誌』　請求記号 特1-843
ガラス使用

やまと三世弁瑞上人も行者の法身にて是徳著(イチヽル)きの方なりしを常に場所を
思ひ米袋を荷ひ世病人孤獨等を時ハ手為し後世の事勤め器者ハ子引歌
といへるを作り是を堀夷語めて教へ自ら鉦(カネ)打鳴し舞踊等しまた持ちの世
和人せるも旅しゐひしなれ上人を念佛カモイと云て等敬しける上人常に
行者の法徳を諸人に示しなかこそ中に一人の小才子(コサカシキモノ)なりて行者ハかく等きき
四方なる六本地なるそこに存生難官しけるを上人まより志て宣布ともなし
行者の本地佛を志るんと我願ハなし也或夜夢となく現となく天童
を降り一つの事を授けなまふ是を解きたるなれ徳本行者弥陀化身為度
衆生来入大宅法等作人 是生稱人とあるにて如て行者の本地佛を
成りし自ら是を認めたまへるひしも 菜鴨一行院記録 摘要 如此大徳の事隔なしまひしか者

国立国会図書館　タイトル『東蝦夷日誌』　請求記号 特1-843
ガラス使用

今ふ遥屑の部女まても称名念佛をそ
シ、 コニホテ ボポウニシケイナ
念佛 子引歌
カモイ
上人

南空の弥陀佛 姫夷地大臼山善光寺に於
ア大本部弁隆上人念佛

タパアン。ウタレ
あんやん
エパカシム コヌカ
ライコハンチキ
死ぬいやもう
ウレセチトハケ
かるうるの
チユラ アフレハ
月もりもゆく
エマチホホウタレ
夷や子供ら
タハレムシリカタ
土笑うるも

エパカシム コヌカ
おんをゆよ
子ンフチム キイヤレ
念佛まゐせ
ライワ子 ヤツカ
志ふけるとても
シヨモライコダンタ
死せる國へ
エヌ、カシケ ワチテキ
うおをちゐは
シヨモヤイ ホムシユ
危難けも

トナシカ モイレカ
早ひらもそひら
キイクル チヤキサ
まゐそ念ふ
ヤアキシセイヘレ
悼のめけから
ラマンセカトハ
往ゐ生まて
ウレラ チン フチ
共ふ念佛
ムシリ エソハコ
なの甘そさ

アリシムユイ ライナ
アなか死ぬよ
センバラヤウカ
いつ何時ふ
ヨヨラムコラチ
棄らめく
ヤエラムアニ子
心のまゐよ
キイチキヒリカ
申りよいそ
アチランヤトクテ
浮土まれ

和人も夷人も
シヤモ、 アイノモ
チホレフ ヌヘツ子
ちゐゐゐまも

ウタレモトノモ
ケそそのそ
シヨモライルホ子
死ぬ事そる

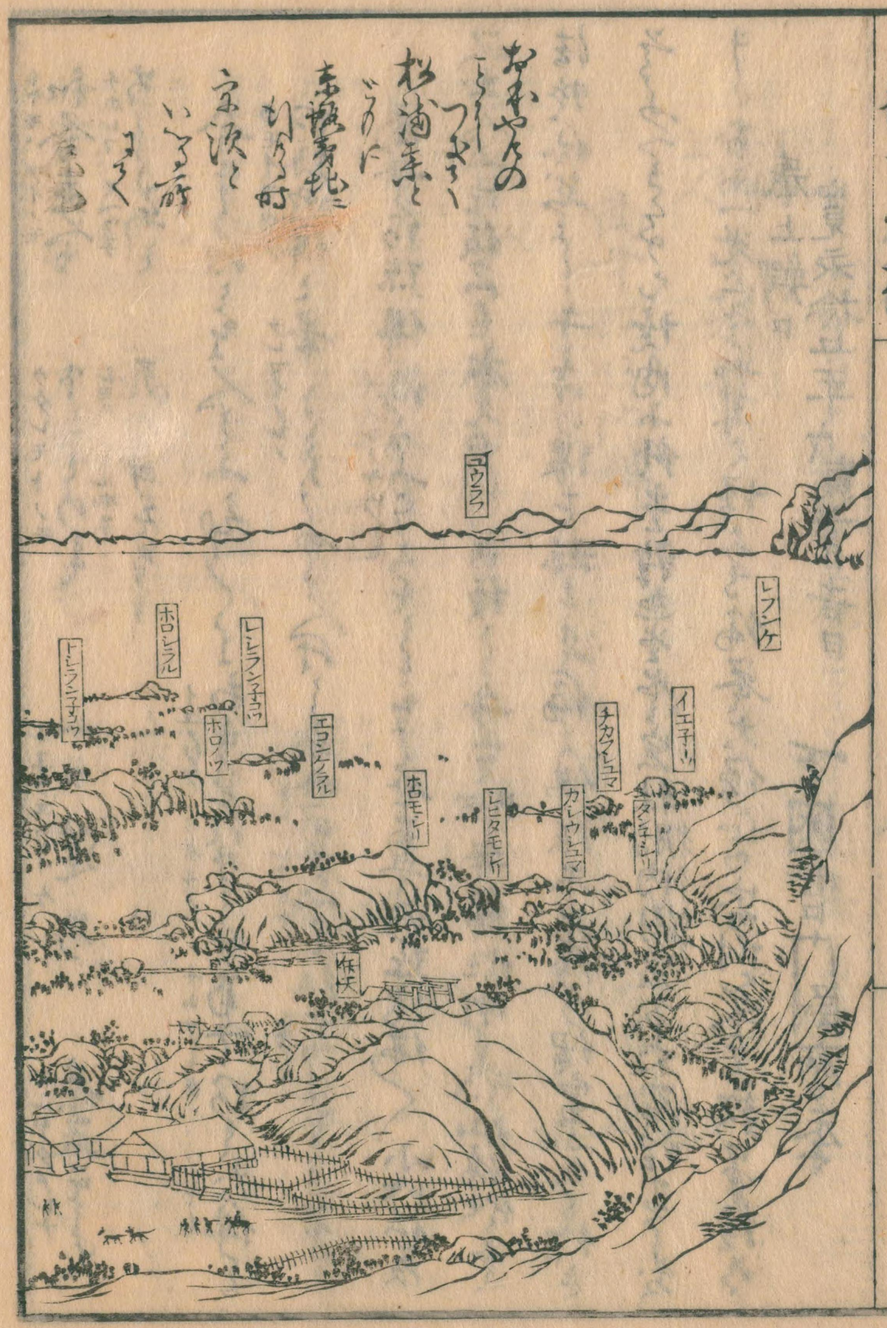
今よりはまゐ人ゐふもゐゐゐわ
イユウケ ライラノ
ゐをまゐゐまゐ南空なる大佛と
ナムアミタ キイ
カモイラッタ ラレマイノレノ
称弥陀佛と掌ゐゐゐゐる人ゐまゐ
タレシシリカタ チカレノ
ひまゐゐか世のまゐふそひまゐゐゐ者
南空の弥陀佛称ゐのふゐゐゐそゐゐそ
イノンノケウトモ
又五人ふ片仮名を教えのひ一日続ゐ弁宝四代弁雄代明三六代仙海七代ゐ
法螺依ゐゐ千ゐの像を赫まそ像
ゐゐのゐゐゐも境内ふ経堂釋迦堂
ゐゐゐゐゐ社船内御守方丈庫裡等ゐ
タイネイクリ
まゐおふ一光三尊の来え場よ手ゐ倫等
大佛ふひ宮附之文古ゐ納ゐ事経ゐ

奉上鰐口
寛永拾五年戊寅五月吉日

下國宮内尉康季

シ子フエフイケ
一ゐ蓮乃
カシケタアレナ
基ふまゐて

国立国会図書館　タイトル『東蝦夷日誌』　請求記号 特1-843
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『東蝦夷日誌』　請求記号 特1-843
ガラス使用

半縫ニ
宝暦三 癸酉五月大吉日
奉献　松前臼岳善光寺如来　願主　南部大畑武川氏　久兵衛謹敬白

岩角をすり ウコシワシリ 岩 ヤ モヤサン坂 下りし 此し外と云て陸地と変して出合し
陸境より 二丁十九 ノヤフル坂 ノヤフル 蓬坂と云て 三丁 罕る下りてモヤサンとして出合あり
沙地半 三丁 ヤアモイ 深 網を置て 銚を取し 因し ヘラエヘウシユマ 沙地 ホツヌシリ 穴沼と云
大岩窟ある 此に地獄穴と云 焼山と云 無ると云ハ 腹風を生し 夏冷気を噴
其岩の上に小堂ある 本尊地蔵并昔し 去程国より 根大木流れ来り 其を 以て作り 其枝にて千体仏を作りたりとて其に有る 樹木陰森
とし 是善光寺の庶縁之山 岩崎并 ウツカウシ 平濱 昔し ヲサルヘツの口変に有しと
其頃 根の枝にて 梁 ウラエ を無しとウツカは漸く其土地を考ふにヲサルヘツ此に入へ
落しと云て作し 難りれ其今のフルホクツ等の山焼の時に出来ると唯々

名亭畫

国立国会図書館　タイトル『東蝦夷日誌』 請求記号 特1-843
ガラス使用

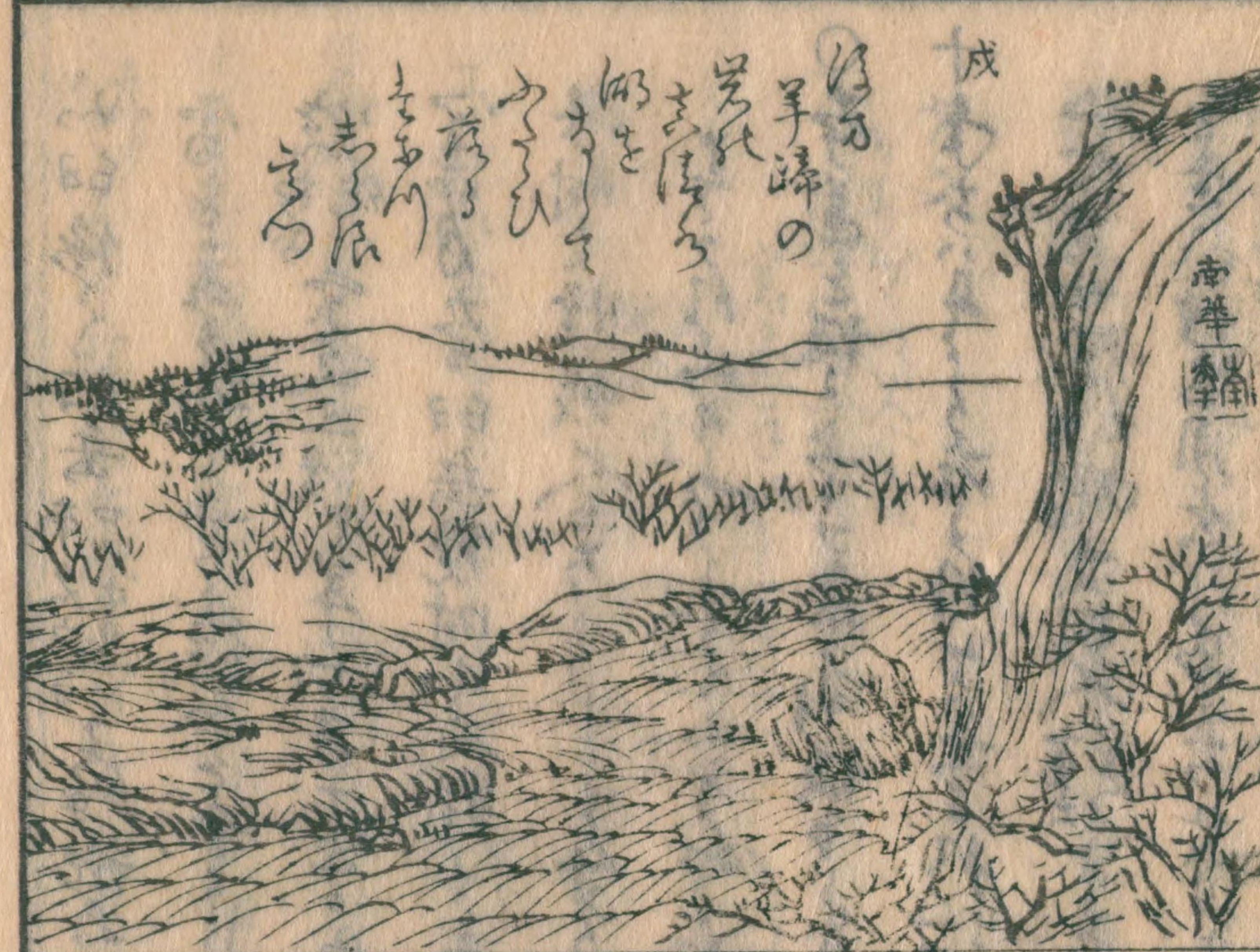
家あるを見る仍て森田藤佐の建標に及ん并てコッチ平地 南方崖あり
是之ウソコマモシリ周十丁余岩島之沙浜也六里余来子時ち出て此処より陸北へ出る
る上はホントウ小沼周五丁水面に芝(カンベ)菱(ヒシ)等あり(タトエ)是よりナエフルカ磯本名ナイ
ホと云沢の口の此之由し川口家有る此の名之三丁余マクロ磯是浜の南
岸之畑多し人家シヨモイ岩名紅葉浜の此之此名カウナキと云名多しホロ
ノツ大岬是より右へ対出る外に出てホンウス小浜小さき浜の此之ヒイシュンコタン川此辺人家有海岸や家や在り
畑多此外向村の此之是合わせし是を云又是よりは名外是をヒイシュン
コタンと云西向まして駒岳を望む此辺家宗平川紅道としたりヨタ
サンゲ并てヲタムイ浜砂也てイッタリキ岬なり苦し此浜に喙(イツクイキ)木有る家を作り
しと候へ是へ宗十丁アルトル川此地鰯小屋夷家有石崎山の向ふの此之是も臼の方

より出ては地名と號けシユマシレト岩岬リイヒラ有る是て一り余川口家
出る是を海岸に遊て云鄕るらふらしき此北ふり之田若六名号を同じ
の附海に是で家たらひき海の名にて
船乗を見て駒ケ岳あやしき結びての舟をん嶽光
○過る(モヤサン)より陸地をりや得出是で楊柳赤楊茱萸玫瑰
生ずホロカウシ平地是より坂あかる廿丁余畑亦シニウシユマ体岩の此此処より臼岳
△海是より東へを分け入と志して虎杖原に出るや山を越て
峰に登て遥に近りて先上ら幾く南に是が野を回りらく東の
方に到る湖の傍に出是を越海と云鄕手有る江戸錢金名云向に
後方羊蹄山并てヒシ子シリ(ヨシリへ)立り其形恰も富士の如し

陸奥紀行
流れしぬみ見るもなりを志ゝてゝ須の山縁と何思ひ見ん　紀正敦
湖中に三ツの島ありて是に小堂ありて国空鉈作りの佛を安置す
省文
うまおくのいん小島
江沙伊吹山平兵衛倍内
寛文六年丙午七月廿六日
始山登　国空

予ハ若年なりしか武年正月小川と池沼ハ氷とる頃に此湖かも氷さる所
土人に其所を問ふに此湖ハ氷ハ人ハ死と見えし小根も其ことを知てこと
しか寛縁ありて寛永六巳巳蝦夷松前大雪人多く死す何武田沼氷　松前徳田
庶子紀　とあるに如て寛縁と志るあり小西沼見峠　西に見り臼濱を俯し其形

如臼依て臼岳（本名ウショロノホリ）と呼称れり嚴焼抜て常に黒烟を住き手前
雷を表せ如く寛々稔ハを寛々しむ昔ハ志ゝ其年六冬十月臼岳
焼　松前徳　寛文三癸卯年七月十五日宮須岳焼　松前徳田庶子紀　津軽一統志　文政五壬午
至正月九日臼岳焼時に人夥く死す安政元寅年かし焼これとも
此時も怪我人もなりしとあり
其ゝ何れ今ハ其ゝ所ハ有ゝ所ハ有ゝ所ハ　石場　富門
○本道を坂に上るフルホク峠坂下ニ義也ヲサルヘツ限りに見西下りて平野
十年おハ是より左に行ハ右に行ハ一里六丁川端に出る能き廣地なり
△七月廿四日　支配人　富太郎　ハ名源門を給し教導志之人　ハシテヤキ　トソウエシクソ
を生ハ無性食用忘し其ニフルホリより左りに入柳赤楊葉蓼葉赤ゝも



向楊原を行右川向左臼山（ウス山 廿丁）
志はしにて行てハンケ平并てペン
ケ平（山川）此山イマリマリフ岳に続く舟ハ
此平下まで上るなり也上ると岩石の
如く上り難しと左七八丁セタヲミマヒイ
ナイ（臼山南赤 元平）嶋岩常に水洞迄ともいふ
此の岩にて立は激に続き激流を（タキ）
急なり深ハ知り難き深石底の岩
也左右ハ屏風のごとし并てユクヲミマヒイ
ナイ（右 川）是も同く激々急なる滝ハ

見たる附に一滴の水もなかりしとく
ユクハ鹿の事之（廿丁）リヤコタン（小 深 此処 宗）
また宮まで蜂を避けんとて今（ヤヤ）
切れて樹頭之泥の中にありしなれ
たりリヤて城屋の岩此已泥深くて
深埋を踏まで危かりしに我衣を
見て指し若も逝んとして泥中に
四足を踏込み渉かりしを土人
枝木を渡して横へ之此上を渡り
之を荒の所を難儀ならく成なり

国立国会図書館　タイトル『東蝦夷日誌』 請求記号 特1-843
ガラス使用

是より杖木を与へ辛ふして撤中に此処を下るて白楊ふし ルエン
ワツカ 小川巾七八丈 瀑ルシ 布落ちて深く渕をなし川 ヨウロ 大 エナヲを作り
其向て山中凡そ彩の先彼岸を不らず磨る膵血を瀬ずて山径の
一奇を… ヲホナイ 小岸 小澤 此も急流 詳ニ石の… 丁 弐三 ソウベツフト ソウベツ
是より源へ上る 丁 五六 チエホツナイ 同枝 小急流 此も白楊の ヤヽニ
三国四国の… 十五 六丁 るて瀑河 ソウヘツ 凡巾七 急流 此処 流る 瀑之 トロ
滑るて… 川面 三丁 渓や アフタ土人 トモツナ 二本ある… 蛇国土人
まと返身… 瀑に落ちし時 昔 サカナ アフ タ 多る老…
名を得る志れ者ありし白場所は如此瀑… 僕 ウタレ
死し… 此瀑を… 我… 白乙石…

瀧ハ元より余ハ飯分の物ゐる処来て落る所ニ生方の過ちんと思ひしに
サカナヤ小チコエキフ（唱物なり）をなして追ふハ土人の法也依て追来しの事ハ
己来臼土人はる獄の雑見る物を唱ことなる事ハ法制ニ繋て川を
蛇角ハ取る川口を入也の場所ニ空ゑんぬとかや
海樹根岩角ニ手を置て上ニ三丁や女岸雑樹陰森たる中ニ大瀧（ホロソウ）巾七八間
二口ニ落大の方中にて獲を打ち有る都無深ニ珠瀧玉并書可聖書
絶予流来ニ獲を図ニ居ケ夜殺濡浸ニ土人ホエナヲ来りて
南雲阿弥陀くと合掌称名しけるを見て牛ニ曳れて急伸し
独るニ流石ニ吾光ちを生の土人来る所也と門ちの子供習ハね
雑を続ての壁如何もと感じたり深見樹根伝ひおゝ上りソウチヤ

平瀧（ビラソウ）の飛望

国立国会図書館　タイトル『東蝦夷日誌』　請求記号 特1-843
ガラス使用

口ニ至る是桃子口之上に登り水明滅樹間ニ其深翠見る事能はず湖予ニ旭豊
正月二日ニ是を同して到る中飛宮流ニ臨み照ぎ立如く又互ニ程を進み
来る如く是ハ高青く飲んかりてヘツカシ八（濱場）誠に此処耕た不一目見を
引き返る上りヌブカ（廿里泉）宿本川左沼の山之（壱泉中廿丁 歩了里余）我等は宿より
了
武人ニ又高き笠りて四方共ニ雑し其臼岳ハ向ニ老岳右ニ
阿寒岳（十口ヘツ源）を附ろう計ぞヌブカは呼んでヌフヒ付却て古ての事之
イヌムコチ川（小）此を挑抜かし百七八丁タツコラナイ川（小）上は小山なる依て多く
此処本川（中十余丁）中に大岩ニ所極険ひ々る流る来る急して窮る
猶を上迄如何とも難く其様猶を化ろ人とて様を称せども学知れ
登るを是らひ難ひ其土人極まく数所を流れ来り三六枚重ね

且き極よく未て此城入で極りは上は到りを見て所は些仕舞ぎと
只ヱ海は所す所なん中に揺ね如く丸く飯ぞ室は言ふ青きを見へ
丗三ら出で立ち向岸一丁ヌツコマナイ川（小）此等之所にて流る大木原を見れかつろの
木の千ら三ツ四ツ二囲四囲の極のごとくケナシシケヲマナイ（小川中五六町）木之
中の川の流る之十余丁レリコマナイ（川中三ある）急流を経て蒸す達摩へ三百極険遠近
多りと此流七八丁ハンケヘツプト（右岸）ヘンケヘツプト（右岸）廿丁流て幌別岳より来る十七八丁
タ々ベツ川（小）其より所を仕て到る間を此在りて南岸岳へ狭りし川原に
出て此間へ越ゆ彼方へ渡り上り（廿丁余）シフミウシナイ川（左小）木繊（シュシュレ）多く流る多く
二三丁ヒラツウ（崖岸）渡るとて去る所を渡る七八丁ホロラウレヘツ川（右岸）幌別ヌフルヘツ岳より
来る二四丁ウツカ（流れ）南岸城如く上り深く（左右舟出）流れ鉄の寒なる出で磨切断と出す

国立国会図書館　タイトル『東蝦夷日誌』　請求記号　特1-843
ガラス使用

ミ由へ（訳タフコツ）是より川筋上ること五里岩崖嶮り川添ふて下りて廿一町にて宿

平らなる処あり大家地をならして宿を設け始て圃を作り櫻を入一匹をも飼ふ未出来ざり

廿六日平岸を下りて岩角を飛越川戒行亀岸小径をめぐり午後には

得て午過に一里（まとり）ヘタヌ（二股）にて来る此辺より先岳の後ろと左に見えり

ベツの後と到る其をトクシヤヲシベツ（左股）と云は鏡川の宮之源察（サツホロ）縄岳

より到るシノマシヲサルベツ（太本川なり）と云は文骨（シユウトウ）州の後より到ると此処にて出会ふ山

無蔵り出家して了翁と称し我深宮に宿せし日タツコブより到る名に

寄し土人も皆念仏など申すこと実になりて支那人にも語り聞かせ出家の営み弁瑞

二上人の法徳を語り云ふ此処の土人も念仏をもって申すことを喜びけり

ヲサルベツ（中三千石 余舟泊）本名ヲサラベツと云ふ川尻に漁渉の義也五六軒あり

上りて後ろに来る処をクツテキナイと云アマホの縄のみにて越て柳原（土人家小休所 漁や茅々）

（鮭場之）モンヘツ（小川 二行る）土人家より出てサンミチセ（砂浜）此辺は浜扇多く和人の出稼し

浮りわが一名好ふ漁之に此浜扇は大の椊に着くより桃は雪のごとん

盛なる時なり此にて出洋牧と云る戯に蜂を見て標に記しおき

来りしときの芳を見て肉の都汁のようにた

サウテキイマリマリフ川（小）大きに川と又并てイマリマリフ（小川 土人家あり 鮭場あり）名とも漁々舟

ありて一流川となりアイノチセ（大）家と云ふ家に依て見るに此辺一面の平地にて

畑地に宜し フウレ平（赤）平エハチリクシナイ（小川）ヲヒ子子フ（川）ヲココロマツプ（小川）

ヲコシフシヘ（小川）ホロ子ツフ（小川）休所 見ても出稼多し 上に小宮あるチマイヘツ（中川）

（五六軒在り）と云ふ所も見ゆると（訳アフタ境から十六丁十間 訳今泉六里八丁十間）本名チヤエヘツと云ふチヤは自ら

国立国会図書館　タイトル『東蝦夷日誌』　請求記号　特1-843

ガラス使用

焼工は喰ある自焼喰川の義之又チマイくと喰ある出るゝ所より云 二シハタ申口 土人の説ゝ其はそのヘケレヲタの説ゝ モロランハエトモの会和を引てより此処を焼とあるとし給へるゝ

△川筋屈出来て進行あり上りてヲホナイホ 右小川 ヘトツル 右小川 此辺地味宜敷ゝハ立程の空地に繁り烟毎ホンヘトツル 右小川 キムンニタイ 左小川 クンナイ 右小川 ヲ出てヘロクワシ 左段 シノマンヘツ 右原 是則

帆立貝
網の図
如図袋を持へ
イマリマリフ遠ゝ
チマイヘツ遠ゝ
の砂浜凡三四
尋の処より
六尋位の処
を添のる
縦横に或
おるく
ゑるも
ゑ棕方ゝは
多く出来
市所の
如し

三尺五六寸

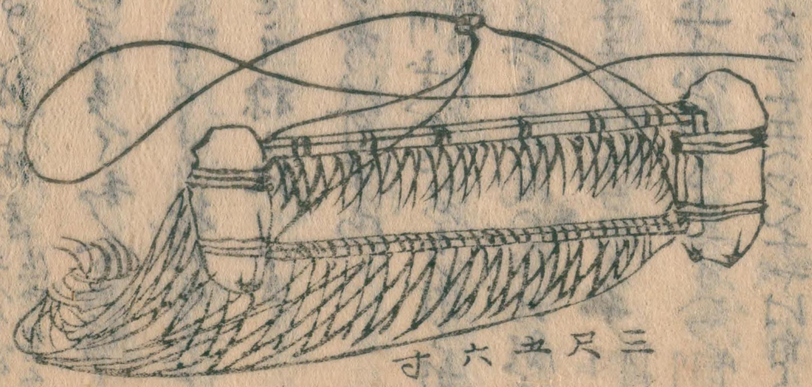
モロラン岳ゝ到るゝ 二シハタ申口

従是海岸を見る不隠也 十丁余 ホロシレト 出 卯 上り八丁 今不知也

○川を越赤土坂上り樹栢原志をしるゝ 十八丁

モロラン 会和 勇行や 勇敢不 網段郎 板蔵 山伏 弁天社 永住たるゝ 弁出稼等多し 雲南向砂原に至し 会和出る 海上七里 断る弁利之土人多し 文政改三十六軒人別百四十六人 安政改四十三軒人別二百五十六人 是は

エトモより極りし所ゝ工トモ会和といへり産物 鮭鰯 鯨鰐 海扇 海鼠 口ゝ布 海蘿 蒸皮 推算 也地名 絵てモルラ 小 ゝ 山 ゝ 工トモ 船 ゝ 弁天の神のホヲチヲシと云大岩に上り拓さし由を見ゝ 又其ゝ 寝ゝ 為しや此を今和蒼鶴の地を作りしゝ 断る西ゝ 隅 多く堀出 ゝ



十八

国立国会図書館　タイトル『東蝦夷日誌』 請求記号 特1-843
ガラス使用

地山の懐にて挾き処なり 此時雪の降りたれば取起く
たるしくしてしろ細くもつ手山縁ち雪車にて行なり志て
海岸崖下モエ岬 是りホトエウシ大岩 此よりエトモの船を解といへりホンヘケレヲタ
小川土人屋ある 小さ所き浦と云後此処にて陸ゑと出合ふ浦ゑ内をハクチヤウマ
そ石ゑの浦と云 エトモ家しモロラン岳を望み風景よろし
何し浅のきそうに称おろし吹ゐし 推ひしふとてむるゑしら
○今ホおより九形を上り 椿根原十八丁 ゑくゆる此処より弱岳を望ゑ縁京之
むらふ多いきや忍ともに浦ゑらん 羽ひは志ゑむ白ゑの濱
ヘケレヲタ小川 此処ゑ南部家の陣屋を立 是より左幸ゑ山之 濱まはホロシヨシケ平岬 海岸
ゑりたるし ホロモエ小湾岬を越てワヌシフト小口 此岸平濱もワヌシツ岬 是より ナリ

ヘウト川口 ホンチリヘウ小川 此処湾の第一の突之一面の平地若しは外海にて浦ゑ無し エト
モは峰ありしと云 傳ふ石ゑ異ゑ谷地にて山岸との義之岬 エトチケレフ
小島 此峰にて仕事しるや日和ゑ変ると云り又ゑ玉詰ゑ似たる故号くとも
此ゑ ホコエ芦原 ウエンチヤシ出岬 悪味鍋の義之トウブツ沼口 上ゑ沼ゑ マクニシ 叢屋
後ゑりて沼ゑ義之変よりか海へ至六十七岬を是り ホンモエ小湾 トツカルモエ小湾
小湾後や 名弱湾との義之を手ゑ玉人ゑりしゑ此ゑ所元へ引換りしゑヲシユク
二小湾 ゑ分陸ゑ悪き故変にて後ゑとの義之ホンヲハシナイ小湾 ホロヲハシナイ
小川 ホロシレト大岬 アルトル山岬 山向ふの義シクシ、岩岬 山蒜多故号く是より岩
崖ゑ来舟たりて難し 此岸舟を立て 并てシヨフキ平岐 近年と人家
ゑりしゑ浦場のゑ結ゑり エトモ岬 鼻の義之又エンケンの結りともいへる

国立国会図書館　タイトル『東蝦夷日誌』　請求記号 特1-843
ガラス使用

是此場所の趣元地にて文化分まで
会所なるべし
△大黒島 周廻四丁 夷ニホロモシリ趣て
学生にて樹ちく此内弁題宜し并て
△小島 周二丁 夷ニホンモシリと云せるし
弁ての社あり内ニ又弁天祠を云へり
月よりえをまさ蝦あれとえとの社湊
これ山のうちは此あるなり事
是を湊岸 又ゆ 会所より和語廿丁斗之宮分
お湊にて浪荒し 二マ 岸 岬 木鉢の如き

岩の所見くホロチヌイ平 平 角 平 平 なるの様相
の所見く崖にて無能 ホロチヌイ平 平 角
ハルカルモイ 小湾 何色にても所に宜き湾の
岩之ケツラウフムイ 崖 岩の多きの岩の高
みしとなりマタエカリ 岩 岬 多き湾猿なる
岩之とマシユエチセ 岩 平 黒く崖と蹼なる
きるの絶壁所見くと云又鶏の冠湾
穴のあるともいへりタン子シラリ 長 磯 セタイ
ツキ 沙 濱 只此布小屋のホンムイ 沙 北 ヲエナヲシ
壹人 岩 石 名義なし 此同見城夷の

国立国会図書館　タイトル『東蝦夷日誌』 請求記号 特1-843
ガラス使用

口和行をして捨ひし如くと又ヲ付ハ其ヲイナウシにて木幣多き
ゆゑも有ちりこと上ニ山ヲ形ヲ寫士の如し
△ホシケサンへと云名義雲より下りし義也一説ニ沖へ流れ物ヲ付
ニ此山を見ゆる有針を立てるゆしと云山也と考(地名)また并ておしふさく
△ヨシサンベ此山第二番ニ見ゆる有ゆるとなり二峰深へ入る
并てモトマリ(小湾)此釜竹(マヂカビ)堙流栗多しフトフレナイ(小川)川口赤き義也此釜鉄
流れ有ちり沢桔梗て切草ニ多し桔梗の意ニ多しムシカリシヨ(岩崖)
大古神ヲ祭ひし絨ヲくしと依て号く浜ニ岩崖難物ニ来ゆり
朱難しチヤラセナイ(川)(瀬)チケウエ(岩岬)一番宮岬の義也ホシチケウエ日此釜山無て絡
案又石英の案ニ土人所来り鑛(サカシキ)を焼て絡を取り結(イワ)ゆゑ俗ニアトカニ(岩)

ヲ勢を試る義也土人必ず舟より此岩を射て通りしとやトカリシヨ(岩破)
鮭場也ウクシハウシ(岩)ニヨモイ(小湾)ヘシホケ(沙地流や)高山の下悪敷坂の義也イタ
ンキ橈の如き岬ヲ有号くフンベシユマ(砂地)鯨頭の如き岩ヲ有也ウトナンカルシ
(岩岬)若し此丈より男神ヲ尻を持り向より女神ヲ尻を持り来り逢ひ
有事ヲ云てワスベツ(小川)昆布場也を事まて人有しとなし此処濱の
境也(横田境海岸十二里九十五丁)并てルウハロ(平地)此処江山ヲ見ゆる名義路の口と云なり
小使セタコアンニシバタ中口
○濱(ヘケレヲタ)より上り擦柏原(平山)一ツ越てホムイ峠ありて上りホシナイ峠(小川)
ありて上りホシハニシ(山坂)ありてヤムウシナイ(小川)栗多き義也ホロニハニシ(坂)難処也
ありワヌシ(小川体ホ)また上り此釜樹木陰森なり下りチリヘツ(小川人家一軒)此

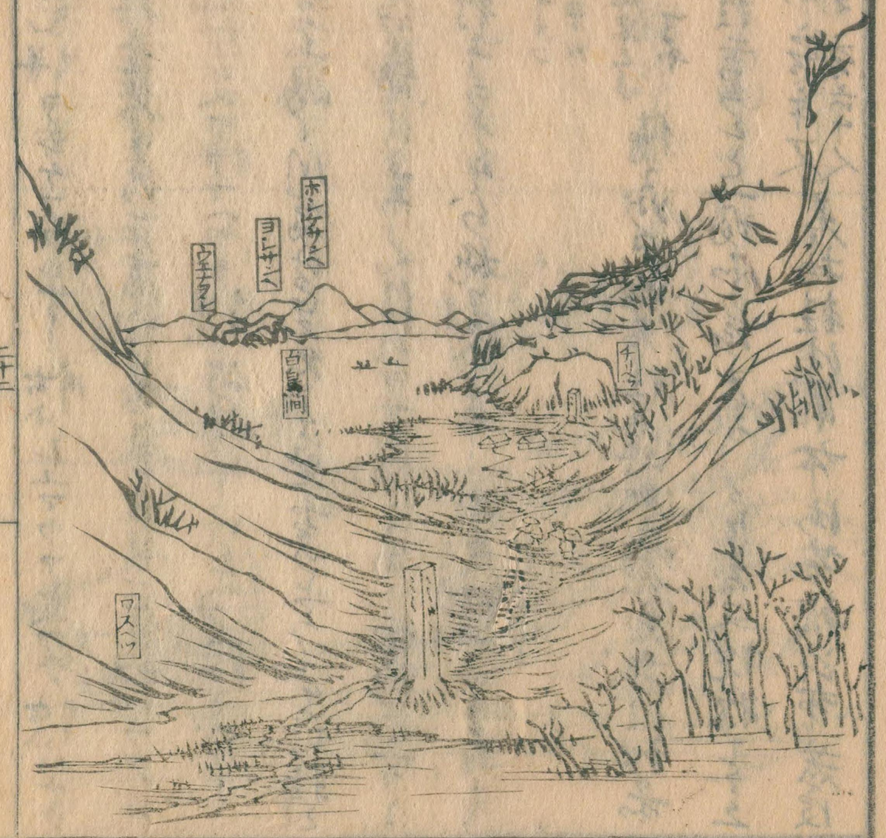
処まで家学雑学を実に見て古の境に従モロラン会に二ツは従ホロハニシサ七丁 そこ六丁ある
様しより坂を上り新境有想て此地の様は海岸にあるべし

ホロヘツ領

○坂ゆりワシヘツ小川 此処在住宮井常力実盤有此地を通る濱に出ルウ
ハロ此所も寛政十一年より切開に来りし此地純粋平地にて宜し
こゝてエワカルナイ平地トンケシ小林 不毛 南交に当地川 小川 継小ある 是
ホロヘツブト 中十三丁 弁法し 名義大川 従モロラン会に五里サ五丁 従境一里サ九丁十三丁 あべて四丁五十丁
△川流屈曲多方平地にて畑多し おし上にタツカルウシ川 左小 様所にて
多きとの義 又ウシトラシナイ 同 ライバ 古小川 此川ライバの様に至る故号也
ノウコシマナイ 左小川 ホロライハ 古小川 是もライハの様に到れ ヲマンタン子ナイ

中 未 午

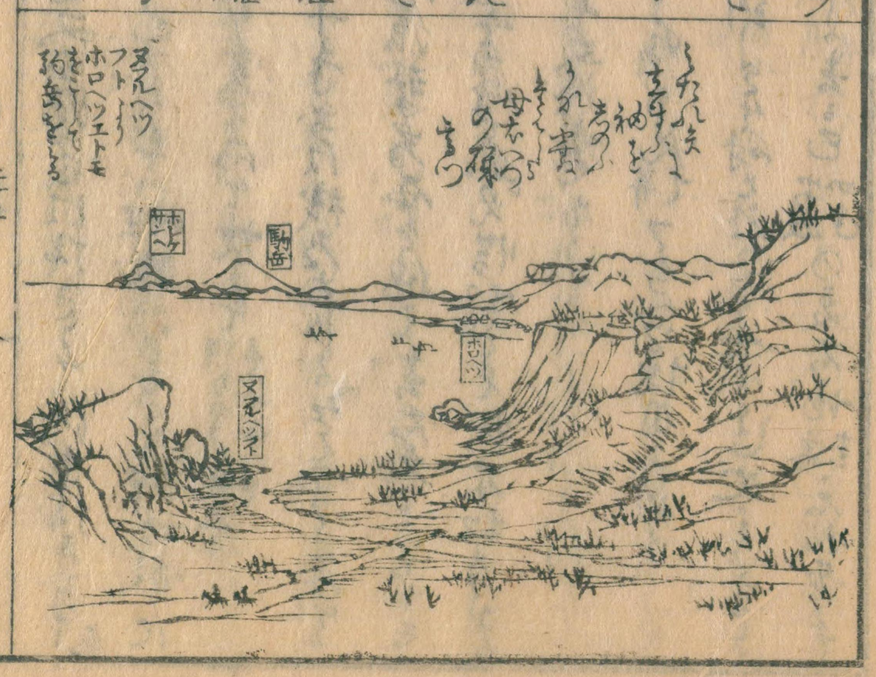
チリヘツの上境目より
河内純里の図



国立国会図書館　タイトル『東蝦夷日誌』 請求記号 特1-843
ガラス使用

右小川 此川もくわしの義也 并てヲシケフウシナイ 右小川 シユマウアンヘツテ 右小川 ハナウ
ントレウシケナシ 左小川 ヘナ 同 此金木立あり高山に来るてウヌンコイ 左小川 ラアルサ
ツタ 同 ヨユイカラマーヘツテ 右小川 ワシヘツヲマヘツテ 左小川 此源よりワシヘツ源に我と
レウケハツタラ 大渕 是より高山縁に川筋皆巨石にて堅雪の上ならしてあり難と
シノマンヘツテ 本川 此源アツイワ岳より来るに後はヲサルヘツに当る雪時は二丈に
ハシケナイ 越るとも多く雑鮮于ライ其外桃花を多し 又虎班丹(シリキトツフ)を産して
(シヤコタンタケ)
是当国にの名物也 首キメン バク申ロ
ホロヘツ 会不通りや板くらヌ 彼来くら 制札茅荒い勅業不 るや 傍に此見松岩往る此処 又化度方は松前
東原細田俵左人給不也其後モロランと一場不の絵に来しらしき又境界を立
たり土人多し 文政改五十八彩 宮三十人 安政改五十二彩 宮六十人 産物雑海鼠布海苔鰯昆布 荒皮

椎茸多し 土人好て烟化を来るラ
ンボケ西ワスヘツ岬の方平演南向にて
暖地にて山ならかし演に来れども
日に船を沖 遥かなり
土人村まで引越和人から出て平地
十余丁 ヲカシベ小川 モウセウシナイ小川 此処まで
平地一面の茅地也 是より上下安居 雇
下無し 沿付を行 難し 無雑 而也 ランボケ 雇岬
ランを作る 又落ちて 更ボケ 陰也 陰に作る
身を云 只てランボキ 後や 演かし 通て



国立国会図書館　タイトル『東蝦夷日誌』 請求記号 特1-843
ガラス使用

ヌフルベツフト（川の中ふちあり）温泉川口の義也。又ヌフルは温きと云事にて温泉温き義を云
此処人家有しよし。今は只標柱有のみ。フンベヤバ（岩）岬　鯨の義也。此岬の形に
似て居るゆへ云。フンコベツ（古川）昔の川口也。又岩を以て境とす（温モロラン境三十丁廿八丁）
○坂（モセウシ内）ヲ上り九折を上る凡三十丁計。おは棧道ありしかど、今はよく築けり
上り平地（小休石）下崖にて下を眺るに浪打際の岩屋を絶て眺望よろしエトモ
岬内浦岳を見、京悵の蕗塩崎まで高峰を眺め絶景いはん方なし。樹木松ありて
ぶなや実を眺めフンベヤバと云岬の景色又絶景也。かくて
ヌフルベツ（橋）を越て此処に宿を取り、又ヌフルベツに到る。フンコベツ境目に到る
△平坦にて凡三十丁を下りてヌフルベツに到る。此時は昔より丈ありて高き
岩（トッカリ サパ）の辺り、岩の磯を見るにまさりし去る巳（安政四年）の夏、不堪高く私費にて

野を通りてより五郎右衛門と云ものヽ再びせしと云。戊午八月、此処の元より（左方）入る平山雑木立
まで樹木の大木有、ハアナウサンケナイ（右小川）トレフケナシ（右山）此辺よりカモイワ
ッカ（肉罰）清水とて泊る所あり。湯を湧出するに温き由にて、それより上る
山の絶頂に祭り神の義也と云ふ。祭の樹林森深くを渡り
山の絶頂まで至りつけば旅人共にその上の井あり
三伏の頃は此処に一宿をして思ひける。平地に小社をも置ひ望むウスベツ
まで岩井（常刀）等の此辺を登りより岩井処は武州大雲の社前あれど
なりし此辺の川の辺をも窮めし也。此梅沢辺（カモイワッカ）より七八丁白光寺をこえて九折は
上り峠より絶え絶えに発端とし岩を登り、又旅人の多く来りけるを
山の頂は今や清らかをこひける事多く、弱の□幡寺しくなる

国立国会図書館　タイトル『東蝦夷日誌』　請求記号　特1-843
ガラス使用

下る事十五六丁七岳坂妻方雜木樣枝脚る隙地なり此所宋功未明
所処に當たり下り川橋屋下宮角を刎越ヘナウサンケウシヘツ宮小川
屋宮平清ゑ滿る処是を雲石と云ふ急盛り樣垂ゑ怒りて小時を処
是を地獄坂と云是所不協るの是ゑ見ると宮坂切迄ゑかしかりて浸寒
協ゑて止宮石も出来湯治人も居たり道を河中に當て浴をかゝる川の
上に屋根を築二川（西シユンヘツ 水川也 東クスリサンヘツ 熱湯也）ゑて極よき湯に志て入るゝ硫黄に
して息氣を出し又宮るより此人手は五六人も噴上る処と二人斗上る
処と二ケ所なしゝ當時は古く築ゑて観る茶所此小屋なるゝ是も見へ
ず茶ぬ其地も解り異ゑ其ゑ勢茶所も荷ぎたるやに思ゑる源ヌフル
ヘツ岳（ヲ山ほろ ヲサルヘツ也）より落る此処よりラサルヘツに二百雪時は越ると湯家の柱に

奇峰指
問無名
怪異草
折來有
毒疑
錄前川
文蝦夷
雜訊句
敬齋書

国立国会図書館　タイトル『東蝦夷日誌』　請求記号 特1-843
ガラス使用

石場の鐵れ書のるなきてんを傍に平も結し玉
岩をさきこゝにをしたして出る湯のまちもとろにまぶらくるなり　高山
歌をもしめふるるつてふ湯あるまとくるしき所はいとも得たし　弘

白老領（シラヲイ）

境より六丁サ石　アエウロ小川海岸出岬　名義もアイラロまてアイとは矢のアラロを網めまたそ
入るの家に矢を網むと云て土人往来の時寄て矢を取り休に接る義也昆布場
ヲシヨロコツ砂地　同名刈とまゝ無し　十余丁
○往来は海岸よりおしく上小坂る是を越てヲモンヘツの屋右へ出る所あり
エマニシ岬箸石とのふ義見てヲモンヘ小川陸地と寄て無ふ屋体不法や考へ出や名義時
化の時は川口に牙をとらぬ也

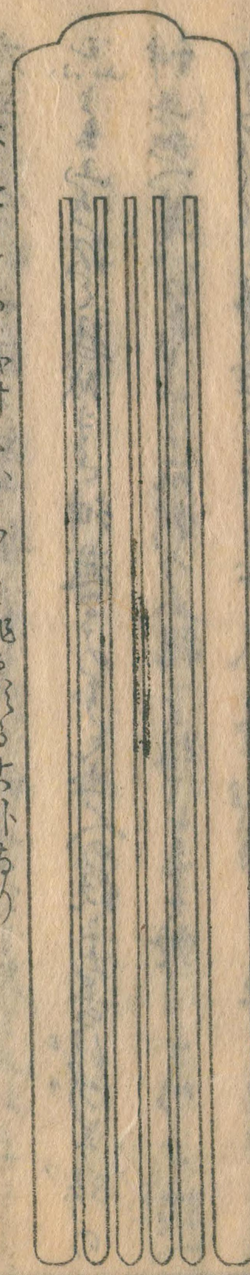
国立国会図書館　タイトル『東蝦夷日誌』　請求記号 特1-843
ガラス使用

△川筋にヒシノシナイ 右小川 ゑて二役右ホロナイ 源ヌフル ヘツ岳 左りホンヲモシヘツ 左源クツタ
ルシ岳虎杖多きとの義也 顯く沿る 内五六丁 是まで多くて何ぞへ落ちる知れなきも
とも枝に神 カモイワカ 名に出るとも思ふ久 久 楢領 摩周 マシウトウ 湖のみを沿て二シツに出る同利之
彼を凡五里 是は一つに半ばかり定怪しとそれ事なし
濱つゞき 十余丁 ヒンナイ 沙濱 ホロナイ 小流 トンケシ 小口 古え沿るしとそはなしシキウ 川中三十余丁
船渡し 小体 南岸人家 二十六軒 ゑ秋味均しシそれるキウを落ち夏菜貝母之此川
筋に多くなる故 是くと
えそ人かいて粒りしそ相なく志きふの流り沿てくして 高い
△川筋 南岸平地 狂沿 右小川 ハエシト 左小川 トヒウ 右小山 タツコフ 右小川 トイトシカ 左小川
トロフツプ 右小川 メムフト 右小沼 トウフト 右小川 モシキ 同 アハヲイ 此邊より 遠く山てくく

土人共用ゐる 槍の図 大さいろくまで割もさゝ無くる 是れ寸ろ蔵まる処なり

観古雑帖 南部 稙井田忠友著 写本

式方の宝物神代の槍の図



長九寸斗 巾 五寸五分 末まで 他る 断る 古朴なり
大古如此大なる槍なりしを右燭して 部屋をつんぬひ 光火を出すんなる 精蓄学
蓄不知 部の産れのふをつんぬひし 由なること思はるゝ 又如此槍なるべん 掘る
数年は中々掘うとく 物をのも 右おそれその如く 錯りに 所なる物なるを皆掘る斗也

国立国会図書館　タイトル『東蝦夷日誌』 請求記号 特1-843
ガラス使用

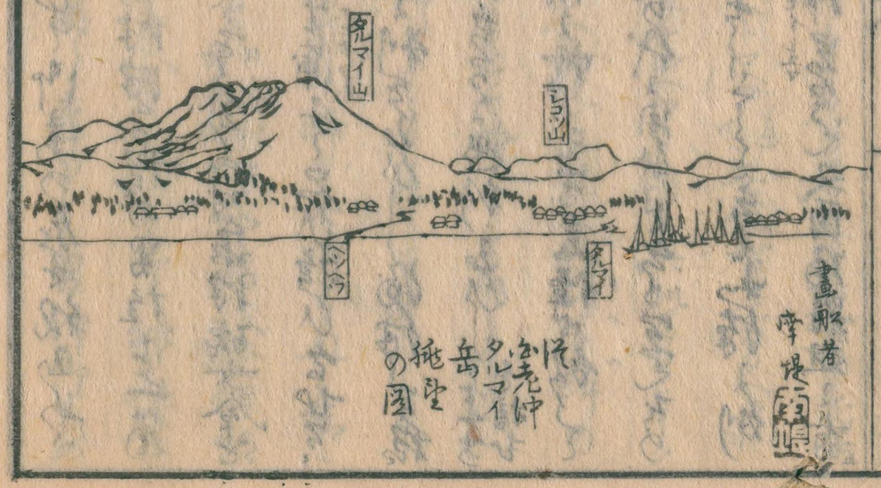
雑藻生川（左小）ヌフヌシクシナイ川（左小）ヌワハヲマナイ其上左りヌフル（ツ）岳右白老岳
の事は雑之ルウラシヌシ川（右小）ウヌシコイ（同）ムヌヨシユマ川（左小）ヘトマ（ツ）て二股右ヱエカシヘツ（小川）
左コヱホクシヘツ川（本）水源はシキウ岳と云る由白ヲサルヘツは当る此処をカモイクシ
（小）山と云山の頂に越後まて神越すの事之土人の説は古此羊蹄（シリヘツ）の
神此処へ来り目を登らる所刺るの小稲を援て道を捨しと作りて濃へ
たるりし其稲の節て岸と茶て今も在るに化したるを廻て生たりしとて
山のみをと云れうらに土人の説を羊蹄と思ども女神ちらんが稲は
国もなき説は訛りたりと云我邦もあれもの（日本紀 古事記）伊弉那岐命伊邪
那美命と云合て女神の御後に御子三千五人を生ひ玉ひ神避坐
玉ひしか出雲国と伯耆国の堺比婆之山に葬りしよ男神御妻の

伊弉那岐命を慕ひ玉ひて黄泉の国に到り玉ひて御妻の屍を視玉ふに
其みかと左りの御髻に刺させ玉ひける湯津津間櫛の男柱を一箇
取闕て火を燭て女神の屍を観玉ひ玉ひ其時泉津醜女命を
遣て追しめ玉ふ是御髪を投玉ひしかは醜女生蒲子（エビカヅラ）と成ひ拾ひ食む間に
逃り玉ひしに猶追来りしかは右の御髻に刺させ玉ひし湯津津間櫛
を引闕て投打玉ふ是生筍（タカンナ）なりと思ひて抜食る間に逃行玉ひし（其筍を搞む）
と云てそ此神の御櫛は之を投て稲は燃して其蒲津の例と
思ふも此処九寸なるそは湯舟村の浦は赤き稲の代に用ひしと云り寛政その
光り云く此は云れ神の櫛なり又其の生たりしとも云るはれ濃にて例
なりと云へ又小蝦夷（クシユン コタン）の宮神（エマカモイ）ソウヤ（ノツシヤフの トウへシ）両の神（カモイシユマ）岩なりと又酉蝦夷姐に有

国立国会図書館　タイトル『東蝦夷日誌』　請求記号 特1-843
ガラス使用

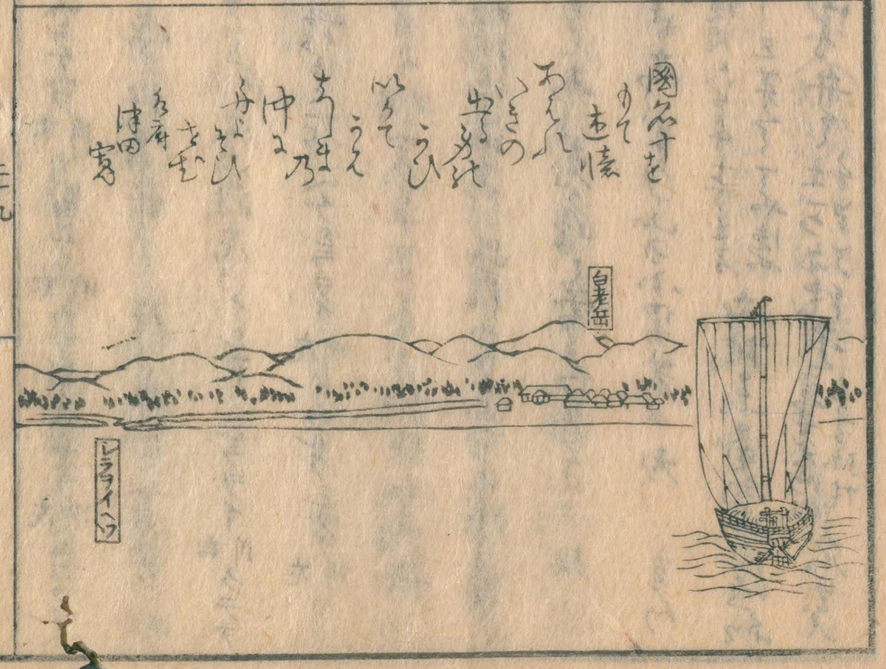
漁子下網拳ニ者石如拳石逆出生色
経手重四十余斤下略と云川筋魁鰐鱗チ
ライ多し堅雪の時サルフツに越によし
越て此を敷る田畑に開き又漆楮等植て
宜し子ツサ沙濱トンケシ同上に沿ひて居る半
埋れたりウヨロ川為夷家三軒此川陸を変して
越まで此川口に白老フウヘツと是三ツ一ツに
合て海に入る也

△川筋屋世生活ありメム右小川并てタツコ
フ右小山イシヤカナイ左川カツテトシハツタラ右大渕



畫船者
牽堤

ヘトコラヘイ左小川シノマンウヨロ源白老岳に
到る桃花急鋭る
又平地志ならずフウヘツ小川名義フウレヘツ
まで赤川の義之沿まで志きあらず
△川筋イシカリフヘツ右小川タツコウトルサンナイ
左小川カマイアンナイ左小川カマシヨケシユリシナイ右小川
源白老岳より来る桃花急鋭多し
ゑて来立原濱に白沙原南向に来く
シラヲイヘツ中三十余ち和流し越て
△川口ウヨロフウヘツと合して海に入る



国立国会図書館　タイトル『東蝦夷日誌』 請求記号 特1-843
ガラス使用

川名沙流ノ方ヘ上ルウトカンベツ川（右）カハヨシナイ川（左）ウサロクテナイ川（左）ムコウ岸ヨリ流ル、此処ニ段丘アリ又モシラヲイトテ小ク流ル、柞茂リ岳ノ方ヘ上ル本川（右）サヨシナイ川（右）ハンケコイ川（右）アシリベツ川（左）ホロケナシ川（左）ナルウシヤツタ川（左）又二段上ル（右）イシラヲイ川（右）此処ヨリ流ヲ東ニ取テフラヒ岳ノ方ヘ上ル（左）ヘケシラヲイ川（左）フラヒチマルリシベツ川（左）源ヲ先岳ニヲマシラヲイ川（右）ヌフリウトルクシナイ川（左）フウレシラヲイ川（左）源ヲ先岳ニ到ル此雲附ニ上ル雑穀チライ鏡桃等多シ此ロヲサルベツノ源ヲ尋ル一ト通リニ非ス山ノ小男荷ノ者ノ案内ヲ以テ山ニ入ル事ナレハ也（弘）

シラヲイ（按ホロベツ等ノ如ク此下ニ流ノ字ヲ脱セシヤ）制レ（依テ）名ス多クハ此ノ如シ

沖ノ島土地平坦ニシテ家上ニ到ル山ノ弁ヲ社阪弥作是ヲ開ク名ヲ

シラウヲイ（按ホロベツ等ノ如ク此下ニ流ノ字ヲ脱セシヤ）ノ源ヲ此処ヨリ越ス一里半ニシテ山ノ頂ニ到ル此間ニ小川数条アリ皆ナ東ヘ流ル、此山ニ入ル事ナレハ也（弘）

異布雑穀ヲ銚雑ト名ク蕎皮桂等沖嵐多シ又此処ヨリ流ヲ東ニ取テ下ル事凡ソ一里半ニシテ山ノ頂ニ到ル此間ニ小川数条アリ皆ナ東ヘ流ル、此山ニ入ル事ナレハ也（弘）

〈又ヨリ上十二丁〉仙養家陸奥国安積郡（安段甲宮）ヨリ来ル

経ヲ写ヲ地図ヲ写ヲ川名ヲ書ス此図ヲ以テ用ヲ弁ス

社ヲ勧ム一郎丸ヲ純生ヲ処ヲ以テ十章ヲ作ル（改明山書）

支川名ヲ中川ヨリ上ル（大畦萩）（新川少）（泉川雪）（旭岡神社）

（数井川桜）（純生月峰）

支柱大ニ〳〵ニシテ初ヨリ終ヨリ迄ヲ以テ一ト筆ニ書ス此ヲ以テ其ノ功業ヲ

（凡二十丁ヲモツテナイ小川上ヨリ沿テ沿厩ヲ云ヲ以テ斗翁ヤ多ク説神業ヲ）

国立国会図書館　タイトル『東蝦夷日誌』　請求記号 特1-843
ガラス使用

タイ（小休石谷地ある夷家一軒）なる川ある是則ベツベツと云て上に到る海岸芦多しと云

〈川筋海岸菴地平地多しホンヒラクシナイ川（左小）イクウシヒタ川（右小）タン子平平ク

テクン平平ハウニシ平平リイ平（同）フウレ平平ヘナワンラウレ平皆左り方崖に繋り

右の方ヘナワンクシホンヘツ川（右小）カマイアンナ川（右小）ホンシヤタイ川（右小）源重（タルマイ）岳原より来

る也桃花急競多し

るそ（十九丁）ベツベツ川ある本名ベツブトまて川口との義也一説往昔川上に堀（ウハハミ）塩ク

ありしに依て号たりと是ユウフツ境なり川中標柱何り（従ホロヘツ境五り廿七丁辛五月従シラヲイ

急ぎ一里廿丁辛月）此邊悪てタルマイの禁に来て風景よろし

東蝦夷日誌貳編

松浦何のし其雪中にて立ちて蝦夷の地山を

ゆるし分寄して葉月来り帰りしハ以上同事なき

なまて此の人をなる悪業なるまでなし

蝦夷乃地人と云ふ以上海

ゆるし悪業の地山沢命

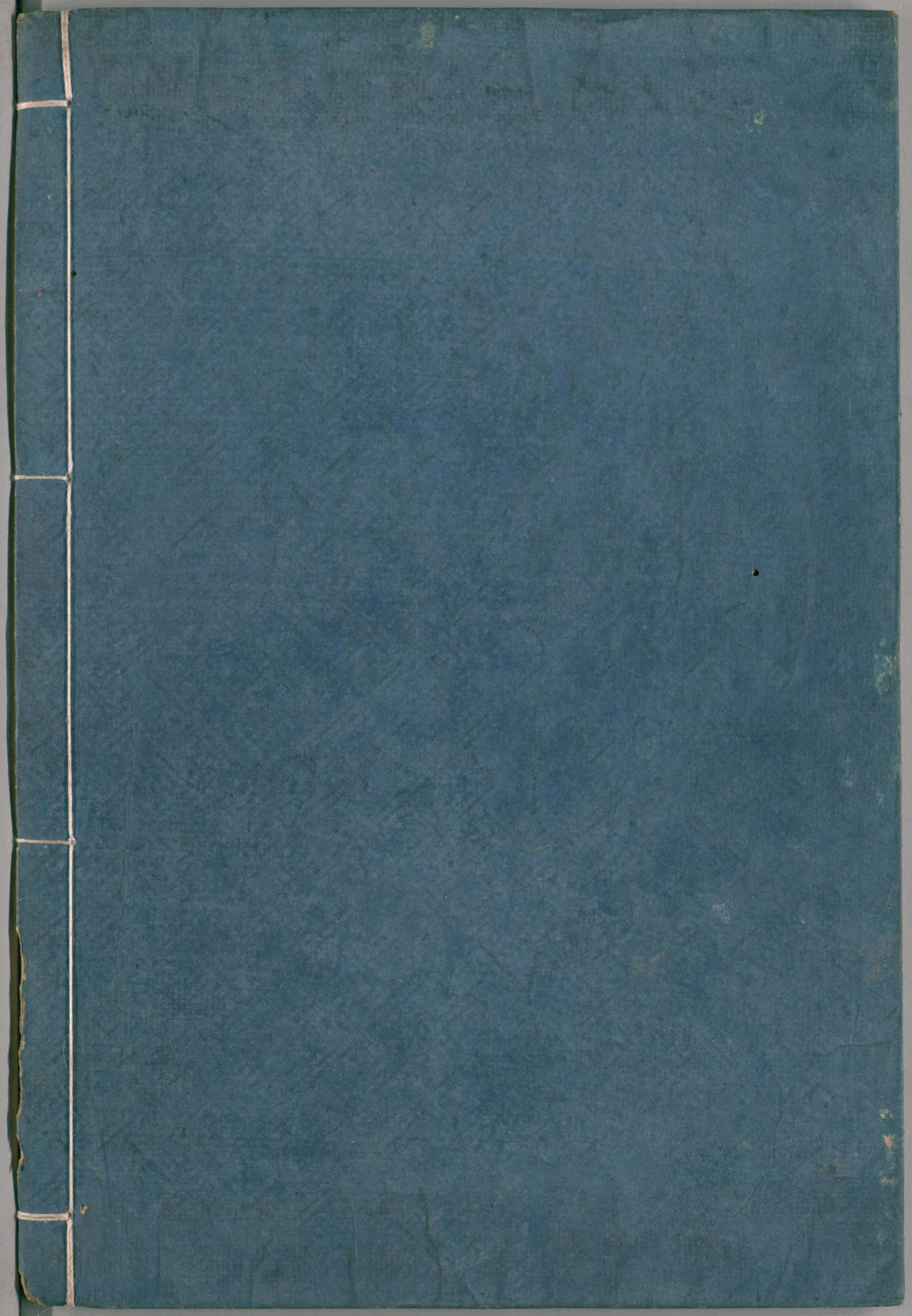
尾ひとい

乾正

特 1
843

国立国会図書館　タイトル『東蝦夷日誌』 請求記号 特1-843

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『東蝦夷日誌』　請求記号　特1-843

ガラス使用